2008.10 水野

1. 本資料の要点

本資料ではns2のインストールと確認方法について述べる。かなり細かく書いているので、 途中どこをやっているのか分からなくならないよう、最初に本資料の要点をまとめる。

ns2のインストールはUNIX/LINUX上にインストールするため、初めにそれを解決品けれ ばならない。今回は cygwin を使ったが、これのインストール方法については別資料を参照し て欲しい。

要点は以下のとおりである。

(a)cygwin setup & install	2章、	3章
(b)ns2 圧縮ファイルの入手と解凍	4章	
(c)ns2 のインストール	5章	
(d) パスの設定	6章	
(e)プログラムの確認	7章	

コマンド等で記述するなら以下のとおりである。

(b) http://www.isi.edu/nsnam/dist/ より ns-allinone-2.30.tar.gz を入手

\$cd /home/000/

\$tar xzvf ns-allinone-X.XX.tar.gz

(c) ns2 のインストール

\$cd ns-allinone-X.XX \$./install

以下、上記(a)-(e)に従い、説明する。

2. cygwin セットアッププログラムのダウンロード

デスクトップにダウンロードすると以下の画面のようにアイコン(赤丸)が出来ます。



3. セットアップの開始と完了確認

セットアップに<u>約2時</u> <u>間半</u>かかりますが、すべ てが無事終了すると、上 の図の4個のアイコンが 追加されます。

さらに c ドライブに作 成された cygwin のファ オルダを確認すると、右 のようなファイル、フォ ルダが作られており、さ らに



home

を開くとインストールし た<u>パソコン名</u>の付いたフォルダがある。 これを以降、/home/〇〇〇/と表記するが〇〇〇の部分は各自のパソコン名になっているはず である。

このフォルダには以下の5個のファイル、フォルダが格納されている。

📛 Administrator		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気		2
🔇 戻る 🔹 🕥 - 🏂 🔎 検	索 🍺 フォルダ 🛄 -	
アドレス(D) 🛅 C:¥cygwin¥home¥Admir	istrator	💙 芝 移動
 ファイルとフォルダのタスク デ 新しいフォルダを作成する ごのフォルダを Web (ご公開 する) ごのフォルダを共有する 	 bash history BASH_HISTORY לא ביד לא שלא שלא היד שלא שלא שלא שלא שלא שלא שלא שלא שלא שלא	
その他 🌸	itexmf	
 home マイドキュメント 共有ドキュメント 	図3 /home/○○○/の中身	

ここまで出来ていれば cygwin のインストールは無事に完了している。もし出来ていなければ C ドライブ上の"cygwin", "cyginstall"フォルダを削除し、再度、インストールを実行する。 ここまでが cygwin インストールの最初の山場。

4. ns2 圧縮ファイルの入手と解凍

4.1. 圧縮ファイルのダウンロード

http;//www.isi.edu/nsnam/dist/ より "ns-allinone-2.30.tar.gz (圧縮ファイル)"をデス クトップへダウンロードする。その後、C:¥cygwin¥home ¥〇〇〇へ移動。直接このフォルダ へ異動しても良い。

<u>C:¥cygwin¥home ¥OOO</u>フォルダ内に、**"ns-allinone-2.30.tar.gz"**が格納されていること を確認する(図4、第二コマンド"ls -a"参照)。

4.2 ns2 install 事前準備

ns-allinone-2.30.tar.gz の格納を確認したら、デスクトップ上のショートカットをダブルク リックし、cygwin(UNIX)を立ち上げる。

** UNIX コマンド:pwd **

pwd カレントディレクトリを知る時に使う。迷子になったとき、「ここ はどこ? 今いるディレクトリは?」を知るコマンド。

ここで pwd と入力 (enter) すると、/home/〇〇〇/と出力される (図4、一段目参照)。

さらに、このディレクトリに何があるか調べるコマンドを示す。

** UNIX コマンド: Is **

- ls リストコマンドでこのままでも良いがさらにオプションをつける ことが多い。
- ls△-a ドットファイルを含め、ファイル名を列挙する。
- ls△-1 オプションは数字の1。一行づつ示す
- ls△-l オプションは小文字のL。ロング形式で示す。

などであり、詳細は各自学習すること(△はスペースを示す)。

ちなみに、私のパソコンでの例を示す(〇〇〇の所が Administrator になってしまった)。

	- 🗆 🗙
\$ pwd Abama (Administrator	
/ home/ Administrator	
\$ Is -a	
bash_history .bashrc .texmf	
bash_profile .inputrc ns-allinone-2.30.tar.gz	
ALL ALL ALL ALL ADDITIONS OF A DECEMBER OF A	
	-

図4 ns-allinone 圧縮ファイルをダウンロードした後

図4に示す様に、**"ns-allinone-2.30.tar.gz"**がフォルダ/home/〇〇〇/内に存在することを 確認する。

4.3 圧縮フォルダの解凍の実行

4.3.1 解凍

これで準備が完了した。つまり、①/home/〇〇〇/のディレクトリにいること、②解凍するファイルが存在すること、を確認した。いよいよファイルの解凍を行う。

\$tar xzvf ns-allinone-2.30.tar.gz (enter/ CR-LF)

C*	- 🗆	×
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/trees.h		•
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/uncompr.c		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/DLL_FAQ.txt		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/Makefile.bor		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/Makefile.emx		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/Makefile.gcc		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/Makefile.msc		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/VisualC.txt		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/zlib.def		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/win32/zlib1.rc		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zconf.h		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zconf.in.h		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zlib.3		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zlib.h		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zutil.c		
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zutil.h		
8 _		-

数多くのプログラムセットが解凍・インストールされ、スクロールアップした後、前記の画 面で終了する。

ここで、/home/mizuno/のディレクトリに ns-allinone-2.30 のフォルダを確認すること。確 認方法は C ドライブからフォルダを検索しても良いし、UNIX 上で ls コマンドを使っても良 い。ドットファイルを除いて、5 個だったファイルが 7 個になっているはずである。

4.3.2. 解凍後のファイル確認

ディレクトリを移動する。このため、cd コマンドを使う。

\$cd ns-allinone-2.30 (enter/ CR-LF: 以下省略)

以下のファイルが解凍されている(最終段のファイル、フォルダ群)。

💽 7/ns-allinone-2.30	- 🗆	×
ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zlib.h ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zutil.c ns-allinone-2.30/zlib-1.2.3/zutil.h		•
\$ ls -a bash_history .bashrc .texmf ns-allinone-2.30.tar.gz bash_profile .inputrc ns-allinone-2.30 \$ cd ns-allinone-2.30		
) ~/ns-allinone-2.30		
\$ Is -a . README install otcl-1.12 tclcl-1.18 zlib-1.2.3 cweb nam-1.12 sgb tk8.4.13 INSTALL.WIN32 gt-itm ns-2.30 tcl8.4.13 xgraph-12.1		
) ~/ns-allinone-2.30 \$_		-

図 5 ns-allinone-2.30 解凍後

5. ns2 のインストール

"ns-allinone-2.30"のディレクトリに移動し、インストールを実行する。即ち、

\$cd ns-allinone-X.XX

\$./install

図 5 の最後の行のプロンプトで\$./install を実行する。すると、次の様な画面でインスト ールが開始され、約 25 分くらいで完了する。





上の画面が終了直後の画面で、辛抱強く待つと、インストールが完了する。インストール直

前に確認した際、ドットファイルを除き、14個のファイルがあったが(図5)、以下の図に 示す様に、インストール後には20個に増えている。



6. パスの設定

最後の難関のパスの設定について記述する。

資料1 (添付資料)にパス設定前の.bash_profile を示した。ここには if 文が二つあるのみ で、これ以外はコメント文(#で始まる)である。

はじめにすべてコメント文にし(勇気のある人はすべて削除してもよい)、資料2にあるパス設定のコマンドを記述する。なお、途中に第2章で使う演習問題に対応するパス設定もあるのであわせて行っておく(08/09/09の直下の行)。

要点は、以下のコマンドを記述するということである。

```
export NS_HOME=/home/mizuno/ns-allinone-2.30
export
PATH=$NS_HOME/tcl8.4.13/unix:$NS_HOME/tk8.4.13/unix:$NS_HOME/bin:$PAT
H
#### The following line was added 08/09/09 ###
export PATH=$PATH:/home/mizuno/NetworkSimulation/bin
export LD_LIBRARY_PATH=$NS_HOME/otcl1.12
export LD_LIBRARY_PATH=$NS_HOME/lib
export TCL_LIBRARY=$NS_HOME/tcl8.4.13/library
```

export PATH=、export の記述後、一文で続けて記入すればよい。この記述をした後、再 起動などは一切不要である。なお、パスの設定でエラーが発生する場合がある。一例を資料3 に示したので参照願いたい。

7. 動作確認

カレントディレクトリからホームディ レクトリに戻るため、現在のディレクトリ で、

\$ cd

とコマンドをうち、ホームディレクトリ に戻る。さらに pwd コマンドで現在地を 確認する(図4、第1行参照)。ここで、 次のコマンドを入力する。

\$ startx

\$ns

ns-allinone-2.30/ns-2.30/tcl/ex/simple.tcl

いろいろな数字が出力された後、右の画 面がでれば完了。

この画面は PLAY ボタンを押さないと 動作は開始しないので、注意が必要。





なお、全体のイメージは上図のとおりである。X-Window 画面に数値が3行。NAM の説明 画面、そして NAM アニメーションの画面である。 終了する際は、①NAM の説明画面、②NAM アニメーションの画面、を閉じ、X-Window 画面で「logout」、「exit」を実行する。

また、長いコマンドを何回も入力するのは厄介である。矢印ボタンで上矢印を押すと、前回 入力したコマンド文が何回も登場する。各自一回確認してから使うこと。これは便利な機能。

(以上)

base-files version 3.7-1 # To pick up the latest recommended .bash profile content, # look in /etc/defaults/etc/skel/.bash profile # Modifying /etc/skel/.bash profile directly will prevent # setup from updating it. # The copy in your home directory (~/.bash profile) is yours, please # feel free to customise it to create a shell # environment to your liking. If you feel a change # would be benifitial to all, please feel free to send # a patch to the cygwin mailing list. # ~/.bash profile: executed by bash for login shells. # source the system wide bashrc if it exists if [-e /etc/bash.bashrc] ; then source /etc/bash.bashrc fi # source the users bashrc if it exists
if [-e "\${HOME}/.bashrc"] ; then
 source "\${HOME}/.bashrc" fi # Set PATH so it includes user's private bin if it exists # if [-d "\${HOME}/bin"] ; then # PATH=\${HOME}/bin:\${PATH} # fi # Set MANPATH so it includes users' private man if it exists # if [-d "\${HOME}/man"]; then MANPATH=\${HOME}/man:\${MANPATH} # # fi # Set INFOPATH so it includes users' private info if it exists # if [-d "\${HOME}/info"]; then
INFOPATH=\${HOME}/info:\${INFOPATH} # fi

資料1 パス設定以前の .bash_profile

資料2 パス設定後の .bash_profile ### 2008.8.20 Modified ### export NS HOME=/home/mizuno/ns-allinone-2.30 export PATH=\$NS HOME/tcl8.4.13/unix:\$NS HOME/tk8.4.13/unix:\$NS HOME/bin:\$PAT н ### The following line was added 08/09/09 ### export PATH=\$PATH:/home/mizuno/NetworkSimulation/bin export LD LIBRARY PATH=\$NS HOME/otcl1.12 export LD_LIBRARY_PATH=\$NS_HOME/lib export TCL LIBRARY=\$NS HOME/tcl8.4.13/library # base-files version 3.7-1 # To pick up the latest recommended .bash profile content, # look in /etc/defaults/etc/skel/.bash profile # Modifying /etc/skel/.bash profile directly will prevent # setup from updating it. # The copy in your home directory (~/.bash profile) is yours, please # feel free to customise it to create a shell # environment to your liking. If you feel a change # would be benifitial to all, please feel free to send # a patch to the cygwin mailing list. # ~/.bash profile: executed by bash for login shells. # source the system wide bashrc if it exists #if [-e /etc/bash.bashrc] ; then # source /etc/bash.bashrc #fi # source the users bashrc if it exists
#if [-e "\${HOME}/.bashrc"] ; then # source "\${HOME}/.bashrc" #fi # Set PATH so it includes user's private bin if it exists # if [-d "\${HOME}/bin"] ; then # PATH=\${HOME}/bin:\${PATH} # fi # Set MANPATH so it includes users' private man if it exists # if [-d "\${HOME}/man"]; then MANPATH=\${HOME}/man:\${MANPATH} # # fi # Set INFOPATH so it includes users' private info if it exists # if [-d "\${HOME}/info"]; then # INFOPATH=\${HOME}/info:\${INFOPATH} # fi

資料3 パス設定時のエラー対策

.bash_profile を修正した後、このようなエラー多発現象にであうことがあります。これは Windows 上で修正した際、改行などの制御文字が UNIX 上で悪さをするためです。

E	X~
bash: \$'\x': command not found bash: \$'\x': command not found	<pre>bash: \$'\r': command not found bash: \$\r': command not found bas</pre>
startxwin.bat - Starting on Wind Stephen@237-8 ~ \$	lows NT/2000/XP/2003

http://www.baisi.net/thread-40355-1-1.html

解決方法は、<u>http://q-eng.imat.eng.osaka-cu.ac.jp/~ippei/unix/text-operation.html#l1</u> な どにものっていますが、つまり、

改行文字の変更(dos2unix, unix2dos)

Windows で編集したファイルを UNIX で使おうとすると改行文字が悪さをする事があります。Linux では unix2dos, dos2unix というコマンドが用意されていて、これを使うと改行文字の変更ができます。 (他の UNIX では別の手段を講じる必要がありますが、それについては省略します)。 また、

解决办法是对/home/XXX(你的主机名)下的 .inputrc、.bashrc、.bash_profile 和/etc 下的 bash.bashrc、运行 dos2unix 就行了。

と言う事で、/home/〇〇〇/のディレクトリに移動し、"dos2unix .bash_profile"を実行すれば、 この制御文字の問題が解決します。